山岳事故調査書の提出のお願い

日本勤労者山岳連盟・遭難対策部

全国連盟遭難対策部は、従来の事故報告書を今回お送りした「**統一フォーマット方式**」の事故調査書へと改めました。この新しい調査書は、日本勤労者山岳連盟、日本山岳協会、東京都山岳連盟、日本山岳会などの共済または山岳保険をもつ団体が協力して、山岳遭難防止のための事故データベースを作ることを目的に実施するものです。

これまで日本の山岳遭難における事故データの収集や分析は、警察庁や各山岳団体が独自の基準で行なってきました。そのため基本となる調査項目などは共通性がなく、日本全体の山岳遭難事故の分析を行なうことは困難な状況でした。そこで私たち日本勤労者山岳連盟や日本山岳協会は、組織登山者を対象に共通のデータベースづくりが可能な「統一フォーマット」形式の調査書を作ることで合意し2002年から実施しています。この調査書による事故のデータベースが軌道にのれば、警察庁にも働きかけ、未組織登山者を含めた調査書に拡大発展させ、山岳遭難事故防止へ役立てていきたいと考えています。

この調査書が作られた経緯と意義を理解いただき、ご協力をお願いするものです。収集する事故のデータが多ければ多いほど、科学的な精度や分析価値が高まりますので、ぜひ提出をお願いします。

この調査の個人データは、事故調査とデータベースの目的以外には使用されないことをお約束いたします。またデータ収集分析は関西大学総合情報学部の青山千彰教授（労山顧問、日本山岳協会遭難対策常任委員）にご協力をお願いします。

なお、この調査書についてのお問合せは、全国連盟遭難対策部までお願いします。

調査書の書き方：

全 5 ブロックから構成されています。かなり長い内容ですが、実際に記述する部分は少なく、約30分程度で記入することができます。

質問項目と回答はすべて表の中にあります。　回答方法は質問項目に応じて、自由記述方式と選択方式（複数回答可で○で選択）で回答下さい。全部の質問項目で、少しでも該当する場合は必ず回答下さい。多くの個所で複数の回答となってもかまいません。

記入回答は、本人またはパーティの同行者にお願いいいたします。